

農業とは、「挑み」。そして続けるということ。

聞き手 福島県農民連 根本 敬 写真：尾形敦子

有機って
つながりのこと
じゃないかなと
思ってます。



失敗が前提だから、
チャレンジを
続けられる。

二本松で出会った農的暮らしの原風景。
東日本大震災を小学校3年で経験した塚田さん。
兵庫での生活、愛農学園での生活を経て、
二本松に戻り農業者としてスタートを切った。
21歳が見る日本の農業の先。

塚田さんの原風景

根本 二本松にいたのは何歳まで？

塚田 千葉で生まれて、父の仕事ですぐに二本松に来て、小学校3年までいました。

根本 当時の二本松での暮らしって覚えてる？

塚田 楽しかったのは畑での記憶で。二本松有機農研という生産者のグループがあるということを見つけてきて、そこで野菜を買うようになりまして。当時、代表だった大内信一さんと知り合いました。買うだけでは飽き足らず、田植えをしたり稲刈りをしたり、畑の一角を借りて家庭菜園をしたりそれが楽しかったのを覚えていません。

根本 それから震災があつて。

塚田 はい。一番下の妹が生まれたばかりということもあり、祖父母がいる神戸に自主避難しました。小学5年から中学校3年まで兵庫県のたつの市で過ごして。父は学校の教師をしていたので、単身赴任で二本松にしばらく残りました。

根本 どうやって神戸までいったの？

塚田 新幹線が動いていたのが那須塩原まで。母と僕と妹2人の4人でタクシーで福島から行きまして。3万円かかって。毎年「避難記念日」って家族で集まって毎年3万円分焼き肉を食べたりしてます笑。

根本 ははは。避難した当時のことって覚えてる？

塚田 あんまり覚えていないんですけど。母が言うには、家では毎日、母にあたってたと言ってます。

根本 環境の変化がストレスだったってことだね。避難してから福島とのつながりはあったの？

塚田 祖母が福島市に住んでいるんですが、毎年お盆には帰っていました。帰った際には二本松の近藤さんや大内さんにも会いにいきました。聞くと震災直後はやはり苦労も多かったみたいで、お客さんは随分離れてしまったようです。

根本 それをきいてどう感じた？

塚田 大内さんが実践してきた有機の本質は「つながり」だったんじゃないかと思うんです。生産者と消費者の近さ。野菜が多くとれたときは家まで持ってきてくれたり、積極的に畑を見てもらったりということ。

ないかと思うんです。生産者と消費者の近さ。野菜が多くとれたときは家まで持ってきてくれたり、積極的に畑を見てもらったりということ。

根本 認証はあくまでパッケージのひとつだと思っています。「オーガニックって体にいい」という漠然とした理解で買っていた人たちは皆離れてしまっし、それって本質じゃないと思ってます。このあたりの説明は誤解を生みそうで怖いんですが笑。

愛農学園のこと

根本 それで中学を卒業したあとは？

塚田 ええと、愛農学園に進学するんですが、きつかけになったのは、オープンスクールをしていて。そこで実際に体験して自分が合っているという感じがありました。

根本 学校はどんな生活だったの？

塚田 寮生活も実習も楽しかったですね。最後の学年には寮長にもなって、面倒事もあったりしたんですけどいい経験でした。学校の裏の森でドラム缶風呂をやってみたり、コーヒー愛好会という会をつくったりしました。何よりも愛農学園では全国とのつながりができたことが一番おおいんです。

根本 高校の先の進路はどう考えていたの？

塚田 まあ、のんびり考えているって感じだったんですけど。二本松有機農研にいた近藤さんが二本松宮農ソーラーで働く農業者を探しにスカウトにきて。近藤さんと話すうちに、二本松のこと、有機農研のこと、愛農学園で学んだ有機のこと、いろんなことがつながった気がしました。それで、卒業後は二本松にいたいと母に電話をしました。

根本 お母さんはなんて？

塚田 母は、結構思い切った行動するタイプの人で、若い頃ドイツに単身でいったりする人です。だから、すぐに分かってくれました。

農業の未来

根本 実際に農業に従事してみようってなんなんやっつてるの？

塚田 いまはソーラーシェアリング



のもと、菜の花、えごま、牛の放牧からし菜、そば、小麦、そしてシャインマスカットを栽培しています。ソーラーシェアリングの支柱を使ってシャインマスカットの蔦を絡ませる鉄線をはりめぐらせました。これも当初800万円かかると言われましたが、自分たちで行って200万円で施工しました。お金をかけずともできることってあるんですよ。もちろん、作物の栽培は有機です。

根本 あたらしいやり方ですごくいいと思う。最後にこれを聞きたいんだけど。若い人で農業者を志す人がいたとてなんて声をかける？「農業に希望はある！」と言っつ。

塚田 そうですね。むずかしいですね。でも「希望はある」と答えます。その人が農業に何を望むかにもよると思います。僕は二本松の有機農研と愛農学園で経験した農的な暮らしがあって。収入や労働時間だけではない、生き方として農業をやりたいという気持ちがある人の背中を押せると思います。

根本 なるほど。今の話をきいて思い出したのが、先日亡くなった義理の父のこと。戦後入植で、原野を切り拓いた人なんだけど。とにかく生きていくためにいろんな挑戦をした。でも彼の中では失敗が前提だからチャレンジし続けた。でも生活は大変だった。農業は俗に言う「成功」はないと思う。でも最低限暮らししていける暮らしをつくりながら、挑み続けることができるんだということをやってみて思った。

「お金持ちになろう」というような「成功」を目指さない限り金もかからないんだよ。

塚田 それはよくわかります。農的な暮らしも含めて理想をつくっていく。僕自身はまだ一人暮らしなんですけど、いいところもありますけど。

根本 いいね。ゆるい暮らし笑。今日はありがとうございました！



対談後のふたりのポーズ。未来は安達太良山のほうにある！

農民連フラッシュ flash

本当に国産の牛乳が飲めなくなる

11月30日農水省前で行われた畜産危機突破集会に福島県から82戸の緊急要望書を届け、一刻も早い直接給付を求めた。「飼料代を払うと何も残らない」、「赤字で先がまったく見通せない」など悲痛な畜産農家の要求を農水省前で訴えました。今のままでは本当に国産の牛乳が飲めなくなります。



「原発NO！ 原発汚染水の海洋放出反対」新しいのぼり旗、つくりました

東京電力福島第一原子力発電所からのALPS処理水（原発汚染水）の海洋放出を許さないため、福島県農民連はのぼり旗をつくりました。東北地域では、直売所で、農地で大宣伝中。



太陽光発電用地をお貸しいただける方を募集しています。

用地に求める4つの条件

- ① 福島市内
- ② 約2,000~3,000㎡の遊休地
- ③ 日当たりがよい
- ④ 宅地、雑種地、林地、原野、農地などの地目の土地



【連絡先】

福島県農民連産直農業協同組合 担当:佐々木健洋
Tel 024-546-7229 fax 024-546-8804
メールアドレス:stake@vmail.plala.or.jp

ご連絡お待ちしております。現地を確認させていただきます。

つかだはる
塚田 晴
2002年千葉生まれ
2011年まで二本松市で過ごす
震災を経て兵庫に移住。(～2015年)
愛農学園での生活を経て二本松へ移住。
農業者としての生活をスタートする。